

# 緑が丘



—「自分できめる」「みんなと決める」—  
～今日も「学校が楽しかった」～

令和8年 3月 2日発行 三木市立緑が丘小学校

## 新しい芽 ～ 明日につなぐ～

桜の木には、まだまだ固いですが小さな花の蕾が、既についています。他の植物にも「新しい芽」が少しずつ育ってきているのがわかります。

2月下旬、5年生の子どもたちが、校長室を訪れました。来年度の学校づくりに向けて提案する為に、2年前「雨の日の体育館解放」を提案し実現させたのも当時の5年生でした。ipadも使って、なかなか上手にプレゼンします。「コロコロの活用を」「廊下にもゴミ箱を」「月1回全校外掃除」「学校HP」「ライブ放送」「読み聞かせ」「新イベント」など、それぞれの提案、主理由、コスパ、タイパ、他市町の学校の実践の様子等。聞きごたえがありました。意地悪な校長先生は、「いつやるの?」「デメリットは?」「誰がやるの?」「全校生に知らせる方法は?」等の問い直しや「●●が必要」「計画たてるといよいよ。」といったやりとりをしました。子どもたちが学校の様子をよく見て考えていることや最上級生への意気込みが伝わってきました。

落葉は、厳しい環境条件に耐えるために、弱い葉を落として休眠にはいる落葉樹による適応です。落葉樹は生長期になれば葉のない状況で新しく茎と葉(花)を出さなければならないので、常緑樹よりも多くのエネルギーを要します。葉を落とす前にその分解物を回収し、根や内樹皮にタンパク質として貯蔵し、このたんぱく質が新しい芽が出る際の栄養として利用されるそうです。

今、子どもたちは、進学、進級に向けて次への準備にとりかかっています。立派な次の「新しい芽」を育てるためにその栄養を蓄える大事な時期です。新しい学年になってから、急に頑張ろうと思って、できるようになるわけではありません。何よりも今までの蓄えが「新しい芽」には必要です。今年1年間、頑張ってきたことがたくさんあったと思います。その成長は、樹木と同様に様々です。一見、今は「無駄だった」「失敗だった」と思うようなことでも、あとから長い目でふりかえてみると大きな財産になっていたということは、よくあります。結果だけに囚われず、その過程で頑張った様子を、具体的に認め、称賛を積み重ねることが、今日も「学校が楽しかった」を「明日も…」の芽につながります。

2月22日に閉幕した冬季オリンピックで、リンゼイ・ボン選手は、8日の女子滑降で転倒、ヘリで搬送されました。41歳のレジェンドは、左すね複雑骨折手術の病室からSNSで**「人生で唯一の失敗は、挑戦しないこと」**と発信しました。敬服いたします。

本年度も子どもたちを温かく見守っていただいた地域の皆さま、保護者の皆さまに感謝申し上げます。そして、きたる令和8年4月、掲載詩『およぎだせ』のように、全ての子どもたちが新たな環境の中、なりたい自分にへの挑戦に向け、元気いっぱいスタートしていく姿を期待しています。

(校長 佐野 順子)

およぎだせ

いるか ゆうた

おでこに「きぼう」が つまってる  
せびれにゃ「ゆめ」が きんきりり  
しっぽに きりりと「プライド」もって  
およぎだせ うみの みち

はるかむこうの すいへいせんに  
まぶしい「あした」が まってるぞ



くどうなおこ『のはらうた』より

